

あ い さ つ

公益社団法人香川県看護協会

会長 安藤 幸代

日頃より看護協会活動にご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

また、依然続く新型コロナウイルス感染症に対応されている看護職の皆様のご尽力に敬意と感謝を申し上げます。

昨年、香川県で9月に開催が予定されていた第51回日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会は、一昨年から準備を進めておりましたが、残念ながら4県合同でのWeb開催となり、1か月に亘る学会には7,701名の参加がありました。日本看護協会と各看護協会との共催で行われてきた日本看護学会は、今後は日本看護協会の主催で年2回の開催となります。

さて、香川県看護協会では、看護研修や集会などは三密をさけ人数制限をし、オンラインで開催するなど、IT化が進みました。しかし、機器の不足や経年劣化による課題が顕在化し、研修環境を整えるため、マイクや中ホールのスクリーン、映写機を更新しました。ワイドになったスクリーンを使用して鮮明な映像を使った研修が可能になりましたので、3年前に更新した大ホールと共に有意義に使用したいと考えています。

令和2年度の重点課題の取組みについて報告します。支部活動については、新型コロナ感染対策をとり、7支部合同でWeb研修「新型コロナウイルス感染症」に関する講演と認定看護師による実践活動報告を実施し、180名程の会員が支部毎の会場に集まり会員のニーズに合ったタイムリーな研修ができました。新型コロナウイルス感染症についての知識を深め、他施設の対応について学べたことで自施設でのあり方が確認できたようです。教育・研修については、コロナ禍のため集合しての研修が困難となり、オンライン研修のための体制整備に時間を要し皆様に満足していただける研修が実施できなかったことを申し訳なく思っています。

香川県看護協会の新たな活動として、クラスターが発生した病院や施設に感染管理認定看護師を派遣、コロナへの相談業務を主とするコールセンターや宿泊療養施設への看護職派遣事業を実施しました。業務に従事していただいた方々はもとより派遣に協力していただいた病院等の皆様に感謝申し上げます。

コロナ禍にあつて事業は活動を自粛し、縮小する1年になりましたが、3月6日に、第1部「看護業務の改善・働き方改革」、第2部「助産師出向支援導入事業報告」として香川県看護協会事業活動実践報告会を企画実施しました。多方面からの報告があり明日からでも取り組める内容は参加者の熱い質問からも伺えました。

令和3年度は、下記の5つの重点課題を掲げ14の重点事業を進めていきたいと考えています。

1. 地域包括ケアにおける看護の機能強化
2. 看護職の働き方改革の推進
3. 看護職の役割拡大の推進と人材育成
4. 看護政策について熟知し、政策実現活動に参画
5. 地域における危機管理体制の強化

総会でご報告しご意見をいただき進めていきたいところですが、まだまだ、感染状況が不確実なため令和3年度の総会も縮小して行うことを理事会で決定しました。会員の皆さまにはご迷惑をおかけしますが、かがわ看護だよりやホームページ等で報告させていただきますのでよろしくお願いいたします。

最後に、遅れておりました「訪問看護ステーションこくぶ・居宅介護支援事業所こくぶ」が協会敷地内に3月28日新築落成しました。看護協会の外壁とも調和した、白と薄茶色の外観で2階建ての建物です。看護協会立のステーションとして今後も地域に根差して活動していきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

香川県看護協会は、看護が注目されている今、看護職の働きを正しく認知していただき、看護の価値を高められるよう看護専門職能団体として進んでいきます。

一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、会員の皆さまがいつもの生活に戻れる日を祈りながら、令和3年度も会員の皆さまのより一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申しあげご挨拶といたします。